

## 2. 環太平洋・アイヌ文化研究所

### 2-1. 理念

苫小牧駒澤大学の大きな特色のひとつとして、アイヌ民族先住の地である北海道(すなわち「アイヌモシリ」)なかでも胆振・日高地域のほぼ中央に立地することがあげられる。この地域に在住するアイヌ民族は、統計上、全アイヌ人口の7割近くを占めている。この地域には、かつてのアイヌ民族の生活を支えてきた自然環境が存在する。また、民具資料などの物質文化が豊かであるのみならず、四季折々の儀礼や儀式をはじめとして、アイヌ民族が誇りとする優れた精神文化に直接的に触れる機会にも恵まれている。つまり本学は、アイヌ文化伝承の中心地に位置するといつて過言ではない。したがって、本学がアイヌ文化の研究をおこない、その成果を市民に示し、アイヌ文化の振興に寄与することは、地元に着目するという地方大学の姿勢としても、多文化の相互理解をめざす国際文化学部の特性からも、必然的な使命の一つといえる。

上記のような本学の立地を踏まえて、平成10(1998)年4月1日の本学開学に先立ち、大学としてアイヌ文化に積極的に取り組むことの必要性が議論された。その結果、国際文化学部の単科大学という本学の特徴を踏まえて、アイヌ文化にとどまらず環太平洋地域全般の先住民族文化について多岐にわたる学問領域を研究対象とし、学術研究を学際的・国際的に行うだけでなく、その成果を広く社会に公開し、地域文化の理解及び発展に貢献する研究機関の創設が目指され、開学と同時に本研究所が設置される運びとなった。

本研究所では、研究所員及び研究員による学術的研究活動及びその成果の発表にとどまらず、シンポジウムや公開講座などを通じて、研究活動を広く一般に公開し、地域に根付いた大学としての社会的貢献をはかっている。また、シンポジウムの運営など研究所の活動に本学学生の参加を促し、北海道地域文化論コース(平成22(2010)年度より北海道・アイヌ文化コース)を中心とした国際文化学部の教育との連携をはかっている。

また、これまでニュージーランド、オーストラリア、ハワイからの先住民族の訪問を受け入れただけでなく、他大学の教員や学生たちが本学の研究所や行事・講義を視察に来るケースも少なくない。これらの機会を通じて、学生が多様な文化に接することで、異文化理解という国際文化学部の重要な教育目的の達成に寄与している。

平成15(2003)年3月には、至近の白老町に所在する財団法人アイヌ民族博物館と本学(研究所)の間で、学術・文化事業交流協定を締結した。この協定は、両者の人的交流、学術情報の交換等、相互に交流を深めることを目的としており、本学の教員・研究所員及び学生、博物館学芸員及び職員の交流 セミナー及び研究会への参加 学術刊行物、資料及び情報の交換 研究会やシンポジウム等の共同開催(学術・文化事業交流協定第一条)などを定めている。

### 2-2. 概要

#### 2-2-1. 構成員

本研究所は「環太平洋・アイヌ文化研究所規程」にもとづき運営されている。

本研究所の構成員は所長 1 名、副所長 1 名、所員若干名からなり、所長及び副所長は本学専任教員から選ばれる。所員は本学専任教員及び学識経験者から選出される。現在の所員数は所長、副所長を含めて 11 名であり、全員本学専任教員である。

研究員は所員以外の若干名の学識経験者によって構成される。現在は、前記のアイヌ民族博物館学芸員や他大学の研究者など 7 名が研究員として本研究所の研究に参加し、研究例会での報告や紀要への論文発表を行っている。また、研究員補として 1 名の若手研究者が研究所の活動に参加している。事務担当として教務課職員が配置されている。

## 2-2-2 . 施設・所蔵資料

本研究所の施設としては、学内に本研究所の研究室及び所長室が設置されている。研究室は主に会議や図書資料の保管に使用される。所長室は現在、アイヌ文化を学ぶ学生向けの多目的実習室に転用されている。また、苫小牧駒澤大学ゲストハウス内に「民族文化資料室」が設置され、以下に述べる丸木舟のほか、アイヌ民族をはじめとした先住民族文化に関する物質資料が保存・展示されている。

平成 19(2007)年 5 月に近隣の厚真町上野地区で 15 世紀頃のものと思われる丸木舟が発見された(放射性炭素年代測定による年代測定を実施)。本研究所を中心に本学は厚真町と協力してこの丸木舟を調査し、保存処理を行った。現在は厚真町教育委員会からの寄託により、本学民族文化資料室に展示され、一般に公開されている。



写真上：厚真町にて発見された丸木舟

写真下：本学民族文化資料室

## 2-3 . 活動

### 2-3-1 . アイヌ語講座及びアイヌ刺繍講座

アイヌ文化への理解を広める目的で、平成 10(1998)年の本研究所設置当初より一般市民を対象に「アイヌ語講座」と「アイヌ刺繍講座」を開講している。両講座とも春semesterと秋semesterにそれぞれ 10 回、年間 20 回開講される。現在は「アイヌ語講座」を本学専任教員が、「アイヌ刺繍講座」を外部講師が担当している。受講生は大学近郊の市民であり、数年にわたる受講者も多い。受講料は徴収せず、刺繍講座の材料費以外の費用は本学が負担している。

### 2-3-2 . シンポジウム

内外の研究者を招き広く知見を交換し、本研究所の研究水準の向上を期するととも

に、本学の研究活動を広く社会に公開するために、シンポジウムを開催している。とくに平成 13(2001)年度以降は、本研究所の中心的行事の一つとしてほぼ毎年度開催している。パネリストは本研究所員、内外の大学教員や博物観の学芸員のほか、海外研修に参加した学生なども報告の一翼を担うことで、研究と教育との連携をはかっている。

- 平成 11(1999)年度 「アイヌ語シンポジウム」
- 平成 13(2001)年度 「先住民族の前近代」
- 平成 14(2002)年度 「環太平洋先住民の現在」
- 平成 15(2003)年度 「胆振・日高におけるアイヌ文化の「地域性」」
- 平成 16(2004)年度 「アイヌ文化：博物館の役割と展望」
- 平成 17(2005)年度 「先住民サーミの文化と教育」
- 平成 18(2006)年度 「イオル構想の実現を果たすには  
イオル構想が目指すものとは」
- 平成 20(2008)年度 「丸木舟が照らすアイヌ文化  
厚真町内発見の丸木舟をめぐって」
- 平成 21(2009)年度 「厚真から考える 擦文期からアイヌ期へ」

### 2-3-3. 研究例会

研究所員及び研究員の研究状況を報告するとともに、互いに検討しあうことで研究の水準を高めることを目的に年に数回の研究例会を行っている。各回、1名ないし2名の報告者が報告を行ない出席者の質疑応答が行なわれる。研究例会は学生や市民にも公開されている。設置以来、平成 22(2010)年 3月までに 22回の研究例会が開催された。

### 2-3-4. 『環太平洋・アイヌ文化研究』の発行

本研究所の研究成果の公表のために、研究所の紀要として平成 13(2001)年より『環太平洋・アイヌ文化研究』を刊行している。これまで第 7号まで刊行され、アイヌ語やアイヌ文化、環太平洋圏の政治や社会、少数民族の現状などについて、およそ 40の論考が掲載されている。寄稿者には研究所員や研究員だけでなく、本研究所主催のシンポジウムや講演会に参加した外部の研究者も含まれる。本紀要は大学、研究所、博物館など 250以上の機関に送付されている（【資料編 -2】参照）。

### 2-3-5. その他

限られた予算の範囲内であるが、アイヌ文化や環太平洋地域の先住民族文化に関する資料や文献の収集及び保管を行っている。

海外の先住民族を招聘し交流会を実施（平成 10(1998)年度、平成 11(1999)年度）、先住民族文化を広く一般市民に知ってもらうため国際フェスティバルの開催（平成 10(1998)～平成 12(2000)年）、苫小牧駒澤大学国際センターが大学祭にあわせて毎年開催しているアイヌ語スピーチコンテストへの協力など、多様な活動を行っている。

## 2-4 教育的成果

本研究所によるアイヌ民族を中心とした先住民族文化の研究がしだいに蓄積されるにともない、研究成果の教育への展開が期待されることになった。平成 16(2004)年度の国際文化学部カリキュラム改正にともない、国際文化学科に「北海道地域文化論コース」が設定され、アイヌ文化を集中的に学ぶことのできる世界で初めての教育課程として注目を集めた。さらに平成 22(2010)年度からの新カリキュラムでは、「北海道地域文化論コース」は「北海道・アイヌ文化コース」に改編され、アイヌ民族の文化や歴史や現状に関する教育が強化された。

このコースでは、「和人」やアイヌ民族の学生だけでなく、留学生も含めて多様な民族の学生が大学生活を通じて異文化の相互理解を実践的に学んでいる。こうした中から学生たちによるアイヌ民族文化の研究組織である「アイヌ文化学生フォーラム」が誕生した。

卒業生の中には他大学の大学院に進学し、アイヌ文化の研究を継続する者、博物館学芸員などの職に就くことで、アイヌ文化の普及活動に携わる者なども現われている。平成 21(2009)年 12 月には、卒業生の一人が日本政府の「アイヌ政策推進会議」(座長・平野博文内閣官房長官(当時))のメンバーに選ばれた。

国際的に見て皆無に等しかったアイヌ民族文化教育の点で、本研究所及びこれと連動した本学国際文化学部のアイヌ民族文化教育は、きわめてユニークで先進的な活動といえる(【資料編 -3】参照)。